



# 2018年11月 会報

60号

平成30年度拡大教科書研修会（10/10）

教科書研究センター5F会議室

拡大教科書の発行者とボランティアが一同に会し、意見交換の場を持ちました。会議の前に教科書発行者作製の標準拡大教科書と、ボランティア作製の拡大教科書を多数展示し、発行者やボランティアそれぞれの作り方や考え方をしっかりと受け止め、今後の教科書作りの参考にしたいと思いました。

## <全体の研修会>

1. ボランティア団体の拡大教科書製作の過程の説明とあらかじめ提示されていた発行者からの質問への回答
2. 2020年度小学校教科書製作スケジュールの概要とデジタル教科書の動向について説明
3. 拡大教科書に関する意見・情報交換

## <共同製作の協議>

共同製作希望の会社と製作グループとの調整

この研修会のまとめとして、一般社団法人教科書協会特定図書専門委員会委員長 岡本哲明氏の寄稿とボランティアグループからの感想を掲載します。

### 平成30年度拡大教科書研修会につきまして

一般社団法人教科書協会特定図書専門委員会  
委員長 岡本哲明

去る10月10日に開催しました拡大教科書研修会には、貴協議会から数多くのグループの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今回のように、ボランティア団体の皆様と教科書発行者が一同に会し、それぞれが製作した拡大教科書を手にとって、情報、意見の交換を行うという集まりは初めての機会であり、その分皆様の関心も高かったように思います。当日は、当方の予想を上回る参加者となりましたため、準備した会議室が手狭となり、ご出席の皆様にはご不自由をおかけした点がありましたことをお詫び申し上げます。

拡大教科書の展示、閲覧では、各グループの工夫や苦心に関して、実物をもとにお話しをお聞かせいただきました。また、会議でのご報告では、発行者側からの事前質問も踏まえて、拡大教科書の製作手順について丁寧にご説明いただき、たいへん参考になりました。さらに、意見交換においては、検定スケジュールなど発行者側の状況もお伝えすることができましたし、教科書デジタルデータの提供時期や画像等の表示順など、今後の課題として検討すべき点もご指摘いただきました。

今回の研修会をきっかけにして、これからは教科書の編集、印刷、供給に関わる、特に若い人たちに、拡大教科書製作ボランティア団体の皆様の活動について知らせ、経験や工夫を学ぶ機会が作れればと考えております。今後ともよろしくご指導ご協力のほどお願い申し上げます。

## 拡大教科書研究会に参加して

相模原市拡大写本赤十字奉仕団  
相羽文子

この度は、特定教科書専門委員会・教科書発行会社・全国拡大教材製作協議会会員が集まる初の研修会でお互い遠慮があったためか、活発な話し合いだったようには感じられませんでした。それでも参加して良かったと思っています。

強く印象に残ったことは、出版社の編集の方から教科書で写真・図などが最初に置かれ、文が後にあるのは、まず「写真・図を見る」それで「考える」という教育が行われているためとお聞きしたことです。

わたしたちは教育方針を熟知して製作している訳ではないので、「教科書通りに製作する」原点を忘れず、その上で配置などを工夫しなければいけないと改めて肝に銘じた次第です。

それからもう一つ、出版社の方々がボランティア製作の拡大写本教科書のことをあまりご存じないように見受けられ残念でした。ボランティア製作の拡大写本教科書を出版社に常備する仕組みがあればより理解が深まるのではないのでしょうか。

このような研修会を設けていただきありがとうございました。

### 意見交換

- ・楽譜の拡大基準（例えば1段落何小節入れているのか）  
一段落は4小節と決まっているわけではないので、2小節でも可能。ただ4小節で1フレーズと考えることが多く、まとまりとしては4小節がいい。メロディの下に入れる歌詞はあまり拡大が望めないため、別ページまたは別冊で歌詞集をつける方法もある。
- ・出版社の教科書がフルフラットにならない理由は  
分冊を多くしないでまとまったボリュームになった方がいいと判断。  
工夫の余地がある。リング製本など試みている。



### デジタル教科書について資料から抜粋

- 「デジタル教科書」の定義・位置づけ
  - ・児童・生徒がタブレット端末を用いて使用するデジタル教材であり、教科書発行者が制作する。
  - ・原則として、紙の教科書と同一の学習内容を持ち、改めて検定の対象とはしない。
  - ・当面は紙の教科書との併用とし、導入、普及については段階的かつ慎重に進める。
- 文部科学省初等中等局長通知「デジタル教科書」関連法案公布について  
今回の法律改正の趣旨の一つは、デジタル教科書により、障がいのある児童生徒の学習上の困難の低減に資することがあるので、デジタル教科書発行を積極的に検討し、配慮してほしい。

デジタル教科書	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書発行者が、各社の判断（任意）で制作・発行・供給する。</li><li>・有償（可能な限り低廉に抑える）。</li><li>・原則として紙の教科書と同一の内容。</li><li>・情報端末に収載し、ビューアやコンテンツに学習のための機能を備える。</li></ul>
---------	--

教科書デジタルデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書発行者が、教科用特定図書等を制作する団体等の申請に基づいて、義務として、文部科学省指定のデータ管理機関に提出する。</li> <li>・無償</li> <li>・紙の教科書と同一の内容。</li> <li>・障害のある児童生徒のための教科用特定図書等を制作するための「素材」</li> <li>・PDF ファイル形式。</li> </ul>
------------	---

※2020年の小学校教科書改訂に向けて、教科書発行者とのコラボは残念ながら、成立しませんでした。



## 2018年8月に実施したアンケートのまとめ

全グループ数…46

回答数…40 回答率…83.3%

①グループの現在の状況について	<p>実働人数（平均値）…17名          おおよその平均年齢…67歳          活動日は月に（平均）…3回          代表の任期は？決めている…21 特に決めていない…15</p>
②拡大の製作について	<p>・拡大写本の依頼状況について          毎年依頼が充分にある…15 もう少し製作したい…16          依頼がない…6</p> <p>・依頼先はどこからですか？          拡大協から…7 拡大協以外…30</p> <p>・PC編集ソフトは          一太郎…17 WORD…20</p> <p>・白黒反転の拡大教科書          したことがある…17 していない…20</p> <p>・高等学校の拡大教科書の製作          したことがある…22 していない…14</p>
編集方法	<p>・拡大教科書          手書き…5 PC編集…21 依頼によりどちらでも…6</p> <p>・一般書          手書き…7 PC編集…12 依頼によりどちらでも…6</p> <p>・副教材          手書き…2 PC編集…9 依頼によりどちらでも…5</p>
③製本について	<p>・製本方法          片面印刷で小口のり付け…32 両面印刷…7 機械製本…7</p> <p>・製本方法について          ・長年作ってきた方法でしか考えたことがない…17          ・他グループを参考にしたい…8          ・その他…10</p>
④協議会からの依頼照会	<p>・依頼を受けると回答したことがある…28          ・依頼を受けたことがない…10</p> <p>&lt;理由&gt;手一杯の仕事を抱えていて、他の物をする余裕がない…4          手書きの要望が少ない…4</p>

<p>⑤デジタルデータ（PDF）の活用</p>	<p>活用している…30 使用したことがない…6          &lt;理由&gt;使い方がわからない…1          申請の手続きが大変…1</p>
<p>⑥グループの活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでメンバーの募集</li> <li>・地元での拡大写本の広報活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のまま維持していきたい…27</li> <li>・新しいことを積極的やってみたい…6</li> <li>している…20 していない…9</li> <li>している…20 していない…9</li> </ul>
<p>⑦判らないことはどうしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大協、地域、教育委員会、学校、盲学校等に相談</li> <li>・ほぼグループ内で検討、解決</li> <li>・利用者に質問</li> </ul>
<p>⑧勉強会テーマの希望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の作り方</li> <li>・校正，校閲の仕方</li> <li>・浮かばない</li> <li>・利用者の実情，利用者が拡大本にたどり着くまで</li> <li>・拡大教科書等の利用者や先生のお話は何度でも聞きたい。</li> </ul>
<p>⑨協議会の役割と今後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・存続に関して</li> <li>・役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状存続を希望するが多数</li> <li>・「存続」を望むかと言われれば，無かったら独自で頑張るしかないと考える</li> <li>・縮小しても拡大教科書を必要とする人の窓口としての存在は必要</li> <li>・情報交換、勉強会、講演会の開催、依頼の仲介</li> <li>・遠方のグループの活動の様子や拡大を取り巻く環境の情報を積極的に求め伝えてほしい</li> <li>・各Gが積極的に関わられる仕組みづくり</li> <li>・文科省、利用者、教科書会社、拡大教科書を必要とする人との窓口</li> <li>・弱視児へのサポートの受け皿としての世話活動</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・存続に向けて世話人の選出方法</li> <li>a.選出が不可能というグループ</li> <li>b.具体的な対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のグループの強制は難しい、時間が取れない、余裕がない</li> <li>・高齢化によるリーダーとしての資質が不足している</li> <li>・首都圏以外のグループには無理</li> <li>・3～4ヶ月に1回程度にし、その他はメール等のやりとりで良い</li> <li>・役割を整理して遠方のグループでも仕事が勤められるように</li> <li>・立候補グループを募り，ダメなら人数の多いグループを指名して交渉</li> <li>・世話人を特別なもの、とても忙しいものと思い込んでいるグループや会員が多いので実際にやってみるためにも交代制にした方がいい</li> <li>・東日本グループと西日本グループと分け2年交代で代表を交互選出する</li> </ul>

c. 遠距離グループの参加の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を持って意欲のある人が担当</li> <li>・アンケート結果でモデルを提案</li> <li>・ある一定の数は地方から選出し、会議等も地方でも行えるようにする</li> <li>・書面やメール、スカイプで参加</li> <li>・協議会の機能のうち一つを東西に分け、西にも拠点を作る 必ず協議会からの情報に対して意見や感想を出すなどを義務づけて全員参加という方向にしたい</li> <li>・年2から3回以上参加交通費支給すれば</li> <li>・メールのグループを4~5位つくり、責任者ではなく交代でまとめ役を決めその意見を中央の責任者へ送る、その後結果をグループへ返信する</li> <li>・勉強会などを地方で開く</li> </ul>
------------------	---

アンケートご協力ありがとうございました。かなり突っ込んだアンケートでしたが、この結果から何が見えたでしょうか？それぞれのグループは長年、ボランティア精神を発揮し、工夫を重ね、プライドを持ってより良い拡大教科書を作ってきました。全国拡大教材製作協議会が全国のグループをまとめ、各方面に働きかけ、情報を発信し、共有する活動を続けることができるためには、具体的に何をしなければならぬか、もう一度ボランティア精神を発揮して考える時だと思えます。引き続きご意見、ご協力をお願いします。

## 拡大 now

- 現在のグループ数…48
- 著作権法施行令及び著作権法施行規則について、11月17日（土）から12月9日（日）の期間で意見公募が行われています。
- 「障害のある児童生徒の教科書に関する講習会」富士ゼロックス主催  
東京：12月25日（火）12:30~17:00 富士ゼロックス六本木ショールーム  
大阪：1月29日（火）第60回弱視教育研究国大会終了後~ アウィーナ大阪
- 会報60号は2019年度活動計画に基づき一部を除きメール送信としました。

## 編集後記 世話人のつぶやき

 ただただ応援したい気持ちだけで世話人になって半年余り。力不足で、勉強させていただくばかりです。先輩たちが残した実績のある協議会を、これからは是非、全国の皆様自身の知恵や行動で成長させて行きましょう。 播磨 幸子（浦和拡大写本の会）

 全国拡大教材製作協議会、代表者会議、勉強会の参加等、経験がなく全てが未知の体験です。銀のしずくの活動としては、先日来年度の拡大教科書の依頼を受け、利用者本人、保護者、学校の先生と一緒に打ち合わせを終え、拡大教科書の制作を始めました。

山本 尚子（大宮拡大写本 銀のしずく）